



三井松島

2027年3月期 第1四半期 決算説明資料

三井松島ホールディングス株式会社

P3

2027年3月期 第1四半期決算報告

P7

2027年3月期連結業績予想及び配当予想の修正

P10

中期経営計画2030に向けた取り組み状況

P13

直近のトピック

2027年3月期 第1四半期決算報告

連結損益計算書

- 売上高 : 前年同期比 **+15.2% の増収**
- 営業利益 : 前年同期比 **+7.9% の増益**
- 純利益 : 前年同期比 **+18.0% の増益**

(単位 : 百万円)

	2026/3期 1Q	2027/3期 1Q	対前期比較 増減額	主な変動要因
売上高	15,374	17,712	+2,337	三生電子、日本カタン（産業用製品）等の 売上増加
営業利益 (のれん償却前営業利益)※	2,622 (2,917)	2,829 (3,113)	+206 (+196)	同上
経常利益	2,774	3,285	+511	
親会社株主 四半期純利益	2,863	3,378	+515	(特別利益) 投資有価証券の売却益 等

※ のれん償却前営業利益とは、企業買収によって生じるのれんの償却額を除外して算出される営業利益です。

連結セグメント情報

生活消費財

日本ストロー、明光商会、ケイエムティ、システックキョーワ、MOS

産業用製品

CST、三生電子、日本カタン、プラスワンテクノ、ジャパン・チェーン・ホールディングス

金融その他

エム・アール・エフなど

(MM Investmentsの上場株式運用益は下記セグメント利益には含まれておらず、
経常利益・特別利益に計上。)

(単位：百万円)

	生活消費財			産業用製品			金融その他		
	26/3期 1Q	27/3期 1Q	前年差	26/3期 1Q	27/3期 1Q	前年差	26/3期 1Q	27/3期 1Q	前年差
売上高	6,552	6,731	+178	7,520	9,770	+2,250	1,317	1,225	▲91
セグメント利益 (のれん償却前)	766 (923)	665 (810)	▲101※1 (▲113)	1,343 (1,455)	1,672 (1,786)	+329 (+330)	513 (538)	491 (517)	▲21※2 (▲21)

セグメント間の内部売上高または振替高の調整（▲14百万円）を行っているため、セグメント別合計値と前項の連結損益計算書の売上高は一致していません。

※1 明光商会等において、為替が対前期で円安に推移したことに伴う売上原価の増等の外部要因による。

※2 前期に太陽光事業を譲渡したことなどによる減収減益。

連結貸借対照表

貸借対照表		2026/3月末		2026/6月末		(単位：百万円)	
		金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	増減額	主な増減要因
	流動資産	74,393	58.2	73,414	56.3	▲978	
	固定資産	53,528	41.8	56,991	43.7	+3,463	MM Investments等の投資有価証券増加+3,939
	資産合計	127,921	100.0	130,406	100.0	+2,485	
	流動負債	49,482	38.7	49,410	37.9	▲72	
	固定負債	22,638	17.7	22,909	17.6	+270	
	負債合計	72,120	56.4	72,319	55.5	+198	
	純資産合計	55,800	43.6	58,087	44.5	+2,287	親会社株主当期純利益 +3,378 自己株式取得、配当金支払▲3,356 その他有価証券評価差額金+2,062
	負債・純資産合計	127,921	100.0	130,406	100.0	+2,485	

その他指標		2026/3月末	2026/6月末	増減額
	現金及び預金	5,701	5,879	+177
	有利子負債	50,237	51,738	+1,500
	ネット有利子負債	44,535	45,859	+1,323
	自己資本比率（%）	43.5	44.4	+0.9

2027年3月期連結業績予想及び配当予想の修正

2027年3月期 連結業績予想及び配当予想の修正

- MM Investments（以下、MMI）における特別利益（株式譲渡益）の計上、株式会社山洋の子会社化による収益基盤の拡大およびグループ各社の増益見込みを踏まえ、2027年3月期通期の連結業績予想を2026年7月22日に**上方修正**
- 上記に伴い、当初配当予想の74円から**130円（+56円）への配当予想の上方修正を決定**

（単位：百万円）

	2026/3期 実績	2027/3期 当初予想	2027/3期 修正予想	対当初予想 増減額	主な増減要因
売上高	65,468	68,000	71,000	+3,000	山洋子会社化等による売上増
営業利益 (のれん償却前営業利益)	9,573 (10,750)	9,700 (10,800)	10,000 (11,100)	+300 (+300)	
経常利益	9,944	10,000	10,400	+400	
親会社株主当期純利益	6,716	7,100	8,600	+1,500	MMI投資有価証券売却益等
1株当たり配当額（円）	64円	74円	130円	+56円	

※ 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値とは異なる結果になる可能性があります。今後、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示する予定です。

※ 中東地域の不安定化を背景に、エネルギーおよび原材料の供給ならびに価格動向については不透明な状況が続いており、当社としてはその影響を引き続き注視してまいります。

※ 当社は、2025年10月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。上記配当額は分割後の株式数を基準としております。

2027年3月期 連結セグメント業績予想

- 株式会社山洋の子会社化については「生活消費財」セグメントへ織り込んでおり、**売上高・利益ともに当初予想を上回る見込み**
- 「産業用製品」セグメント、「金融その他」セグメントについてもグループ各社受注好調等により、**各セグメントの売上は当初予想を上回る見込み**

※MM Investmentsの上場株式運用益は下記セグメント利益には含まれておらず、経常利益・特別利益に計上

(単位：百万円)

	生活消費財			産業用製品			金融その他		
	当初予想	修正予想	増減額	当初予想	修正予想	増減額	当初予想	修正予想	増減額
売上高	28,000	30,000	+2,000	35,400	36,100	+700	4,600	4,900	+300
セグメント利益 (のれん償却前)	2,300 (2,900)	2,500 (3,100)	+200 (+200)	5,500 (5,900)	5,600 (6,000)	+100 (+100)	1,900 (2,000)	1,900 (2,000)	±0 (±0)

中期経営計画2030に向けた取り組み状況

中期経営計画2030に向けた取り組み状況

成長戦略	進捗（2027年3月期1Q時点）
①「 <u>ニッチ・安定・わかりやすい</u> 」の投資方針を軸としたM & Aによる連続的成長	直近3か月に60件超のM&A案件を検討。 山洋・コウナンを成約し、 確度の高い案件も複数進行中。
② <u>上場株式投資による収益源の多角化</u>	2024年8月設立から2026年6月末までの IRRは64%を実現。 （含み益込み、税引前） 配当収入および売却益を着実に積み上げ。 今後の中計期間中も 継続的な売却益を計上できる見込み。
③ <u>グループ会社による着実な収益拡大</u>	CST、三生電子、S&Aは 好調な半導体市況等を背景に 来期分も含めた受注残を積み上げており、 当面の間、好業績を見込む。 その他グループ会社も外部環境に左右されることなく底堅く推移し、 グループ全体で着実な収益拡大を実現。

3つの成長戦略により安定的な収益基盤をさらに拡大

130円以上の累進配当を着実に継続

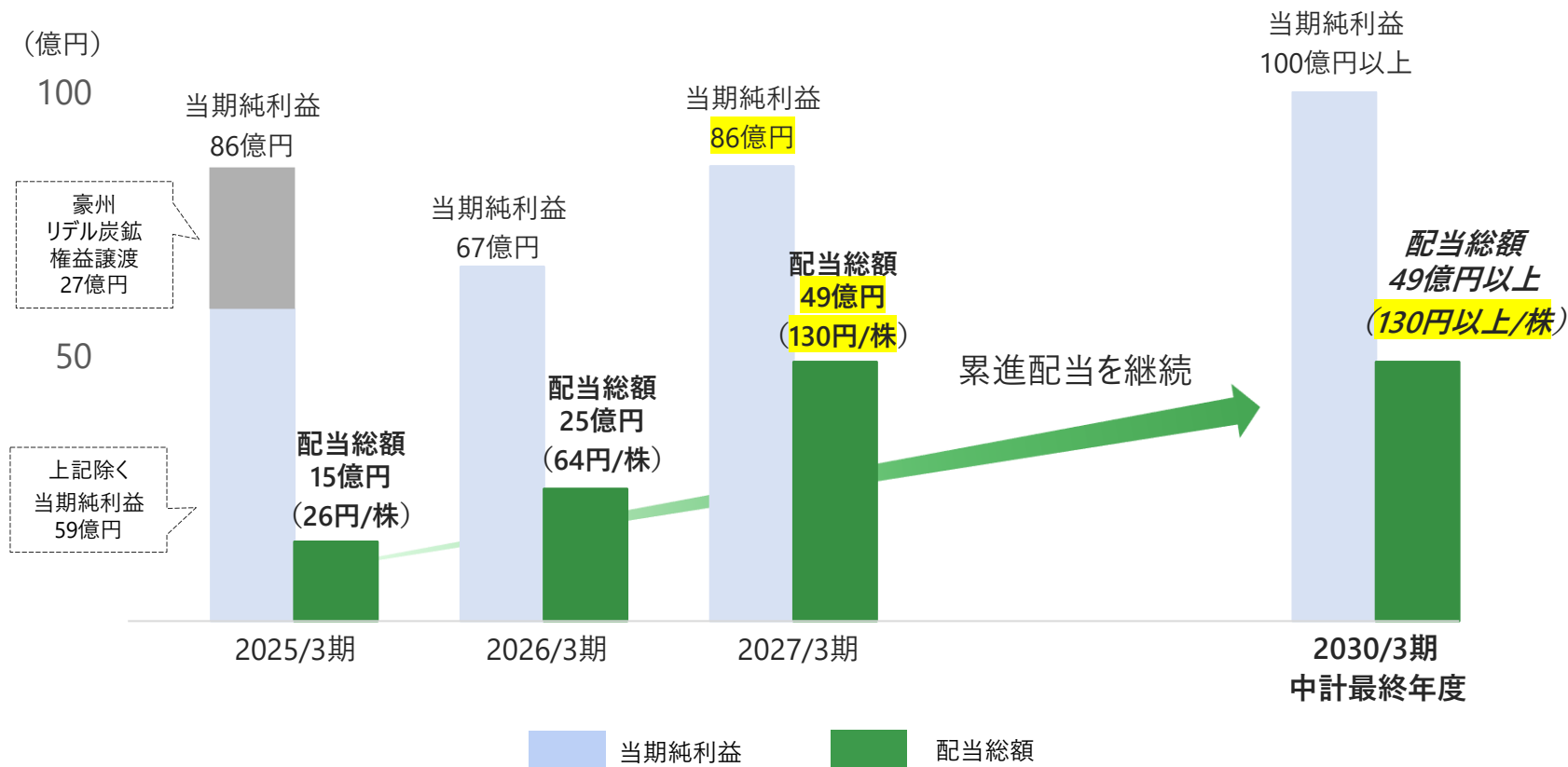
上記収益基盤により更なる株主還元を目指す！

最新の業績予想に基づく株主還元の水準

- 2027年3月期の連結業績予想及び配当予想の修正を踏まえ、以下ハイライトのとおり数値を更新しております。

株主還元方針

「累進配当」を基本方針とし、M&A等による利益成長を通じて、
1株当たり年間配当額の持続的な向上を目指す



直近のトピック

M&Aによる新規事業の紹介



概要

- 2026年8月21日、株式取得予定
- 創業1967年。綿棒分野において50年以上にわたり技術・品質を磨き続けてきた国内有数のメーカーであり、一般用綿棒については国内トップクラスのシェアを誇る
- 工業用・医療用などの高付加価値分野にも製品を展開。工業用綿棒は「HUBY」ブランドとして半導体等の製造過程で世界各国で使用されている。
- 当社がこれまでのM & Aを通じて蓄積してきた製造業におけるコスト管理や生産性改善等のノウハウと、山洋の高い技術力・品質力・ブランド力を組み合わせ、さらなる成長を目指す。



製品

①一般用

使う人のこだわりに応える
多彩な綿棒を展開



山洋 こだわり綿棒

②工業用

精密機械の製造工程に
おいて使用



工業用綿棒HUBY

③医療用

医療機関等での検体採取
に使用



HUBY-COTIX
検体採取用綿棒

M&Aによる新規事業の紹介

株式会社コウナン (<http://www.kounan507.co.jp/>)

概要

- 2026年8月28日、株式取得予定
- 当社グループ会社のMOS株式会社と同じ感熱レジロールの加工・販売分野で主に事業を展開

名 称	株式会社コウナン
創 業	1988年12月
所在地	大阪府門真市脇田町32番22号
売上高	2,594百万円（2025年7月期）

レジロール



本株式譲渡によるシナジー

- コウナンは西日本、MOSは東日本に生産拠点を有しており、両社の地理的優位性を活かすことで、全国の顧客に対する機動的かつ効率的な対応が可能
- 製造ノウハウの共有などのシナジーにより、グループ全体の競争力強化および事業基盤の拡大
- 上記により、**業界No.1の地位を更に確固たるものとする**

本資料の将来の業績に関わる記述等については、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境に関する前提条件の変化等に伴い、変化する可能性があることにご留意下さい。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行なってください。また本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切の責任を負いません。